



11月園だより

令和4年11月1日

目黒区立目黒本町保育園園長

園庭で小さなクラスの子どもたちが遊んでいた時のことです。5歳児クラスの子どもたちが出てきてボールを当てあって遊び始めました。保育士は、勢いよく走りボールが飛び交う様子を見て、園庭に出ている子どもたちの安全を考えると遊び方を考えて欲しいと思いました。もうすでに、楽しさで夢中になっている子どもたちには難しそうに見えます。そこで、保育士はタイヤを3つ並べてボールが入ったら得点が入る遊びを提案してみました。すると乗り気になった子どもたちは、スタートラインを引いたり、離れたタイヤは得点を高くし競い合ったり遊びを展開し始めます。そこに小さなクラスの子どもが「やりたい」とくると「いいよ。ここからね」とスタートラインを知らせて、遊びにいられてあげました。

保育士は、発達をおさえて年齢ごとに理解して欲しい、出来るようになって欲しいといった「ねがい」を持っています。その「ねがい」は保育士が一方的に子どもに求めるのではなく、子どもがそうありたいと思えることが大事になってきます。今回、保育士は5歳児クラスの子どもたちには、自分たちで考えて欲しいという「ねがい」をもちつつ、今の子どもたちの思いを汲んで安全に出来る遊びを提案することにしました。保育士が「危ないよ」「考えて」といった言葉でなく、きっかけを与えたことから自分たちでどんどん遊びを膨らませる様子は、5歳児らしい姿だと感じました。そして、子どもたち自身が主体となって満足して遊んだことから小さな子どもたちを快く受け入れ、自然な交流まで生まれたと考えます。

大人が言葉で教えることより、遊びの中で自らそうありたいと思えるような経験を重ねていきたいと考えています。そのために保育の中でどんな経験をしていくか、どんな働きかけをするかを考えて環境を構成していきます。日常の中で、子どもがこうありたい、こうしたいと自然と感じられるような工夫をし、子どもたちの成長発達を支えていきたいと考えています。

行事予定

焼き芋会 (全園児)
歯科検診 (全園児)
避難訓練 身体測定



芋掘り遠足

待ちに待った芋掘り遠足、大型バスに乗るのが初めての子どもたちです。バスを見ると「これに乗るの」「大きいね」とワクワクしている様子が伺えました。バスに乗ると気分は最高潮になり、農園までの道のはクイズやしりとりをして過ごし、到着を待ち望んでいました。そして、いよいよ芋掘り開始、芋の畝を目の前にして「お芋はどこにあるの」とあたりを見まわし探しています。目の前の土を掘っていくと中から芋がひょっこりと姿を現し「あった あった」と大はしゃぎです。今年の芋はとて大きくて掘ってもほってもなかなか抜けません。「先生、抜けないよ」と困りだす子もいましたが、美味しいおいしいお芋を食べるために掘り進み、ようやく手にした時には「やった一見て、大きいよー」「僕のも大きいよ」と大喜びで友達と芋の大きさ比べをしていました。苦勞の末に掘った芋は、子どもたちにとって宝物のようで大事そうに抱え運んでいました。帰り道、リュックに芋を入れ、バスが待つ駐車場までの道のは「重い、おもい」と言いながら歩きます。前かがみの姿勢になるとそのまま転びそうになり、保育士が慌ててリュックを引き上げる場面もありながらも頑張っていました。お芋の重さを体で感じた一日でした。



戸外遊び ~3, 4, 5歳児クラス~

こぐま組

隣のクラスのぞう組の飼育ケースにバッタがいます。「バッタ探したいな」「どこにいるのかな」と動きを観察しながらバッタに興味津々の子どもたちです。散歩の日「バッタいるかな」と楽しみにしながら林試の森へ行きました。以前、バッタを見つけたという場所を探してみるものの、なかなか見つかりません。「今日はいないのかな」と諦めかけていると、ぞう組の子が「バッタいたよー」と見せに来てくれました。目の前でバッタを見たことで益々、夢中になって草むらを探します。そうしてようやくバッタを見つけると袋に入れ大事に保育園まで持って帰ってきました。捕まえたバッタは、子どもたちが見やすい場所に置きクラスで飼うことにしました。その後も散歩に行く度「今日もバッタいるかな」とバッタ探しを楽しんでいます。今、5匹のバッタがいます。保育士と一緒に餌をあげたり、虫かごをきれいに掃除してあげたり、楽しそうにお世話をしています。



虫探しに夢中になっている3歳児クラスの子どもたち



らいおん組

林試の森に行くと、虫探しをするグループと自分たちでルールを決めて鬼ごっこを楽しむグループに分かれます。以前はすぐにケンカになってしまい保育士が仲立ちしないと鬼ごっこを継続することは難しかったのですが、いまでは子どもたちだけで楽しめるようになっていきます。また、最近は異年齢で散歩に行くことで小さい子のお世話をしたり、優しく接してくれたりする姿も見られます。先日も「帰らない」としゃがんで動こうとしない3歳児クラスの子どもを保育士が何とか気持ちを盛り上げ、5歳児クラスの子が「先生、〇〇君はカナブンが欲しかったんだよ」と、地面に同化していたカナブンを拾い上げ「僕がもって行ってあげるよ」と言ってくれました。保育士が3歳児クラスの子に「カナブンをみていたのね。お兄さんが拾ってくれて保育園についたら渡してくれるって」と伝えると嬉しそうに頷いていました。友達の思いに気づき、寄り添ってくれたことに成長を感じます。

土を練って園庭の築山の改修をする5歳児クラスの子どもたち



焼き芋がおやつの日
テラスで芋洗いをする
4歳児クラスの子ども
たち



ぞう組

林試の森のプラタナスの小径にある木の前で“だるまさんがころんだ”をして遊んでいます。「せーの、はじめのいっぽ」の掛け声で始めると、鬼は“動いてないかな”という表情でじろじろ一っと見渡します。鬼に見つめられ、今にも動いてしまいそうな体を必死で止めようとしながら楽しい気持ちが溢れ出てしまい「うふふ」と笑ってしまう子や、マネキンのように表情まで固める子などそれぞれが友達とのルールのある遊びを楽しみ、真剣に参加している姿が感じられます。進級した頃に保育士と一緒に楽しんでいた遊びですが、最近は散歩先でこぐまぐみと遊ぶことも増え、ルールを教えてあげる姿も見られます。遊びの中で自然な関わりが広がってきていることも嬉しく思います。

